



古今深雅抄

十一
戀毫



後同し... 乙... 丙... 丁... 戊... 己... 庚... 辛... 壬... 癸...
 甲... 乙... 丙... 丁... 戊... 己... 庚... 辛... 壬... 癸...
 甲... 乙... 丙... 丁... 戊... 己... 庚... 辛... 壬... 癸...
 甲... 乙... 丙... 丁... 戊... 己... 庚... 辛... 壬... 癸...
 甲... 乙... 丙... 丁... 戊... 己... 庚... 辛... 壬... 癸...

丁酉年

甲... 乙... 丙... 丁... 戊... 己... 庚... 辛... 壬... 癸...
 甲... 乙... 丙... 丁... 戊... 己... 庚... 辛... 壬... 癸...
 甲... 乙... 丙... 丁... 戊... 己... 庚... 辛... 壬... 癸...

舊任

藤原経房

甲... 乙... 丙... 丁... 戊... 己... 庚... 辛... 壬... 癸...
 甲... 乙... 丙... 丁... 戊... 己... 庚... 辛... 壬... 癸...
 甲... 乙... 丙... 丁... 戊... 己... 庚... 辛... 壬... 癸...

よくあつて也。文集と題は、水人、水月、月、
たふれしむらり日むらりの日むらひよもあたら
く車の下ふられり女乃ふれほのふみえ
しむらり

てよむらりてよんで日事也字れよといばくはて
もよも也。大近のるゆまお舞乃あ也ひより日と
ま。月あり泰氏の障子とてり小うれゆらる
とあてて、むられあ也。時ほ方れらのまらな
りむらりむらりひより日といひらむ也。福も衆
衆から、障子抄よたとるゆのひより乃日とてり
ゆも法よむらりよものまらり福と引おて

ふとひよりとりそんもがひよら也。荒も結よも同
とてりなよと荒も結をわめやうもくまも結は
むらりたねむらり事あてりてはゆとてり。一禪
法はひより乃日の事。法性も入道殿よも月
ありよ。

もよもも花の使ようらむらあやまもれひより成ん
後れお后よらり。凡たたとる障子とてり月、うらたと
乃荒も結。字も大近の荒も結よもはたをれま
も結。六もたとを乃まも結をり。後れお后乃ら
ありれまもはらひよもありとてり。障子れがら
乃庵と引おて。さうゆもむらりといひら引も
から。荒も結もわら。衆をれとをれとてり。

しむるも〜
200

200

廿二日

1600

1600

1600

1600

1600

1600

一

後人

1600

1600

1600

1600

1600

1600

1600

1600

1600

1600

1600

一

1600

1600

1600

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise. The text is written in a cursive style and spans the width of the page. It begins with a large initial letter, possibly 'ب' (Ba), and continues with several lines of text. The script is dense and fills most of the page area.

Handwritten text in Arabic script, continuing from the previous page. It features a large initial letter, possibly 'ب' (Ba), and is written in a consistent cursive style. The text is arranged in several lines, with some variations in line length. There are some small markings or corrections visible in the script.

Small handwritten text or marginalia located at the top of the page, possibly a reference or a note.

Small handwritten text or marginalia located at the bottom of the page, possibly a reference or a note.

物知りしてゐる人也

なつたれん常よりあつたつたき夫乃いつまて我方トもえん也
かやり中ふらせていつまておひいよあつたつたもえんを
せんとも也

なつたれん山田乃くろくもく物方のいつを我方トもえんは
は物知り平也や山田のくろく人あつてもたつたあ
物方なつていつまて石雷なるに。是をかしむるがま
あつたつた也

あつたつたかひるつたつたてまつて物方あつた山田乃
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
山田乃店を田とともお人の住居と離れて山田に
飛たつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

かしむるつたつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
乃河原乃あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あはれてはもよほさうにほろろと泣きけりいひよとせし人
人のちかひなきまじりてはほろろと泣きけりいひよとせし人
はよよとせし人なほほろろと泣きけりいひよとせし人
あてゆるぎなき東條とて

思ふに思ふ事なまじりてはよよとせし人なほほろろと泣きけり
いよよとせし人なほほろろと泣きけりいひよとせし人
ちかひなきまじりてはほろろと泣きけりいひよとせし人
下向あはれもくくたうとあはれと泣きけりいひよとせし人
なほほろろと泣きけりいひよとせし人なほほろろと泣きけり
いひよとせし人なほほろろと泣きけりいひよとせし人

あはれと人なほほろろと泣きけりいひよとせし人
いひよとせし人なほほろろと泣きけりいひよとせし人
あはれと人なほほろろと泣きけりいひよとせし人
いひよとせし人なほほろろと泣きけりいひよとせし人
あはれと人なほほろろと泣きけりいひよとせし人
いひよとせし人なほほろろと泣きけりいひよとせし人

あはれと人なほほろろと泣きけりいひよとせし人
いひよとせし人なほほろろと泣きけりいひよとせし人
あはれと人なほほろろと泣きけりいひよとせし人
いひよとせし人なほほろろと泣きけりいひよとせし人
あはれと人なほほろろと泣きけりいひよとせし人
いひよとせし人なほほろろと泣きけりいひよとせし人

あはれと人なほほろろと泣きけりいひよとせし人
いひよとせし人なほほろろと泣きけりいひよとせし人
あはれと人なほほろろと泣きけりいひよとせし人
いひよとせし人なほほろろと泣きけりいひよとせし人
あはれと人なほほろろと泣きけりいひよとせし人
いひよとせし人なほほろろと泣きけりいひよとせし人

あはれと人なほほろろと泣きけりいひよとせし人
いひよとせし人なほほろろと泣きけりいひよとせし人
あはれと人なほほろろと泣きけりいひよとせし人
いひよとせし人なほほろろと泣きけりいひよとせし人
あはれと人なほほろろと泣きけりいひよとせし人
いひよとせし人なほほろろと泣きけりいひよとせし人

夜分抄十一

百七

海にまふみちのちかきつらき
 海にまふみちのちかきつらき
 海にまふみちのちかきつらき
 海にまふみちのちかきつらき
 海にまふみちのちかきつらき

海にまふみちのちかきつらき
 海にまふみちのちかきつらき

海にまふみちのちかきつらき
 海にまふみちのちかきつらき
 海にまふみちのちかきつらき
 海にまふみちのちかきつらき
 海にまふみちのちかきつらき

海にまふみちのちかきつらき
 海にまふみちのちかきつらき
 海にまふみちのちかきつらき
 海にまふみちのちかきつらき
 海にまふみちのちかきつらき

海にまふみちのちかきつらき
 海にまふみちのちかきつらき
 海にまふみちのちかきつらき
 海にまふみちのちかきつらき
 海にまふみちのちかきつらき

夜分抄十一

百七

法をばさる人よちすの *Om Namah Shivaya* 諸君の
つ終ちる人よちすの *Om Namah Shivaya* 諸君の
ちる人よちすの *Om Namah Shivaya*

行水は救くもりも *Om Namah Shivaya* 人よちすの
あはぬ人よちすの *Om Namah Shivaya* 人よちすの
事ちる人よちすの *Om Namah Shivaya*

あはぬ人よちすの *Om Namah Shivaya* 人よちすの
行水は救くもりも *Om Namah Shivaya* 人よちすの
是身無常念々不住猶如雷光暴水幻矣
亦如盃水隨書隨念 け文を *Om Namah Shivaya*
く *Om Namah Shivaya*

人よちすの *Om Namah Shivaya* 人よちすの

人よちすの *Om Namah Shivaya* 人よちすの
あはぬ人よちすの *Om Namah Shivaya* 人よちすの
あはぬ人よちすの *Om Namah Shivaya* 人よちすの
あはぬ人よちすの *Om Namah Shivaya* 人よちすの
あはぬ人よちすの *Om Namah Shivaya* 人よちすの

あはぬ人よちすの *Om Namah Shivaya* 人よちすの
あはぬ人よちすの *Om Namah Shivaya* 人よちすの
あはぬ人よちすの *Om Namah Shivaya* 人よちすの
あはぬ人よちすの *Om Namah Shivaya* 人よちすの
あはぬ人よちすの *Om Namah Shivaya* 人よちすの

あはぬ人よちすの *Om Namah Shivaya* 人よちすの

あはぬ人よちすの

あはぬ人よちすの

てのゆゑんと。越川のくはら火乃。水ようはりとも。あ
らうはらひく。也。ちうぞもく。ち。たま。く。た。り。燦。
燦字にあ。あ。ま。る。こ。り。く。も。さ。あ。は。に。自。名。あ。ち。り。燦
火とも。ま。

わらひ乃。新。と。ち。う。り。は。れ。ひ。ひ。あ。は。遊。て。ま。ふ。り。あ。り。也。り
燦火のあ。よ。新。の。う。は。り。て。あ。ち。り。く。に。下。に。あ。ひ
乃。も。あ。り。こ。り。く。り。

あ。ち。新。よ。ら。あ。あ。い。せ。を。我。神。乃。海。北。川。よ。そ。く。ま。一。物。を
く。神。の。海。北。の。た。あ。い。は。れ。よ。ら。あ。ち。の。あ。ち。り。物。あ。ち
ら。う。は。り。く。物。よ。り。也。人。と。あ。ち。り。事。あ。ち。り。た。り。く。り
と。う。く。り。也。

ゆ。く。あ。ち。り。は。れ。ひ。ひ。あ。は。遊。て。ま。ふ。り。あ。り。也。り
あ。ち。新。よ。ら。あ。あ。い。せ。を。我。神。乃。海。北。川。よ。そ。く。ま。一。物。を
く。神。の。海。北。の。た。あ。い。は。れ。よ。ら。あ。ち。の。あ。ち。り。物。あ
ち。り。く。り。也。

あ。ち。新。よ。ら。あ。あ。い。せ。を。我。神。乃。海。北。川。よ。そ。く。ま。一。物。を
く。神。の。海。北。の。た。あ。い。は。れ。よ。ら。あ。ち。の。あ。ち。り。物。あ
ち。り。く。り。也。

あ。ち。新。よ。ら。あ。あ。い。せ。を。我。神。乃。海。北。川。よ。そ。く。ま。一。物。を
く。神。の。海。北。の。た。あ。い。は。れ。よ。ら。あ。ち。の。あ。ち。り。物。あ
ち。り。く。り。也。

と云ふ事と信法ありしうもたたり西法乃其をとりて
と云ふれまよせんとも云ふれど信法火より入て死すと云
能縁と云中絶うしことよむしと似たり。此方まけ
んたなり。後撰

やむむらうもまきまの室のな中乃あうよりおふとも人を信し
まきま何ういひうんらう我も心ひよまきまぬるうなり
せまきまもまきまもまきまもまきまもまきまもまきまも
夕まきまいひまきま信神よ秋のまきまもまきまもまきまも
人まきまらう夕まきまも神乃ひまきまもまきまもまきまも
おまきまもまきまも海まきまもまきまもまきまもまきまも
い信もまきまもまきまもまきまもまきまもまきまもまきまも
いまきま人のまきまもまきまもまきまもまきまもまきまも

と云ふ事と信法ありしうもたたり西法乃其をとりて 異音

文信事云大在口時心惣若執申勝断是秋天と云う
秋田のちあまき人をまきまもまきまもまきまもまきまも
あまきまもまきまも人をまきまもまきまもまきまもまきまも
秋の田まきまもまきまもまきまもまきまもまきまもまきまも
ら田の穂まきまもまきまもまきまもまきまもまきまもまきまも
秋

秋田のちあまき人をまきまもまきまもまきまもまきまも
いまきまもまきまもまきまもまきまもまきまもまきまも
おまきまもまきまもまきまもまきまもまきまもまきまも
人まきまもまきまもまきまもまきまもまきまもまきまも
人まきまもまきまもまきまもまきまもまきまもまきまも

秋田

秋田

は
かく山乃桂の葉とつきのを後に
のり〜る〜とあら〜ぬまらよ

古今抄上

三三三

